

テーマ

Theme

「人体のふしぎ」

学校名

School

甲賀市立貴生川小学校(6年生)

講師等

Lecturer

国立大学法人 滋賀医科大学

実施日

Date

平成 24 年 6 月 4 日

教科等

Subject

理科

授業
Class

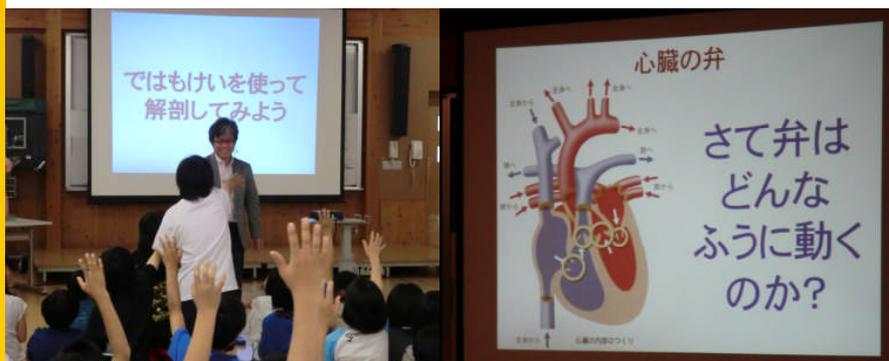
心臓とじん臓の働きについてクイズ形式で、手持ちボタンを押すと瞬時に画面に統計結果が反映されるクリッカーなど使いながら、活発な授業が行われました。

ポンプのように体中に血液を送る心臓の動きに合わせて「ドクン、ドクン」と心臓の音が鳴り響き、血の流れが逆行しないようについている「弁」の説明がありました。「じゃあ心臓を作ってみよう。どの向きに弁を取りつける?」。血液の流れを示した上で、弁の取り付ける向きを選択形式で問います。クリッカーで画面に表れる解答結果に、児童は一喜一憂しました。

今度は聞き慣れないリズムの心臓の音が聞こえてきました。正体は弁に異常のある病気の心臓の音。児童は「音で病気がわかるんや」と、胸に当てられた記憶のある聴診器を想起したようです。

じん臓についてはガラス玉やザルを使って仕組みを学びました。少し難しい内容でしたが、講師から次々に投げかける意外な問いに、じっくり考え込んでいる様子でした。

後半では、医師の仕事についてお話をされました。研究や大学で講義をするほか、患者も診ておられます。「人の命を助けることができるから、医師になってよかった」と毎日思う瞬間がある一方で、「辞めたい」と思ったこともあると、率直なお話をしてくださいました。



感想
Impression

児童より Impression from Children

- 模型や動画、心臓の音などいろんなものを使って教えてくださったので、とてもわかりやすかったです。
- クイズ形式でクリッカーを使って答えたので、とても楽しかったです。
- 心臓の音が弁の音だと初めて知りました。正常の心臓の音と病気の音の違いが聞けてよかったです。
- じん臓が背中の方にあることにびっくりしました。
- 心臓が全身に血液を送ってくれているから、心臓がなくなったら体が動かなくなると思いました。
- じん臓が 24 時間休まず、おしっこを作ってくれていることがわかりました。
- 人体や動物の解剖は可哀想だし、気持ち悪いと思ったけれど、多くの患者さんを助けるために、一生懸命命を無駄にしないように研究されていて、すごいと思いました。

学校より Impression from school

専門家による詳しい説明が子どもたちの知的好奇心をかきたて、少し難しくても何とか理解しようと耳を傾けていました。手作りのソフトで動きある説明、身近な物をモデルとしての説明、ストーリー性のある進め方(ex:血液を送る。どんな仕組みにする?)、クリッカーでの学習参加、そして何よりなんとかわからせようとする先生の熱意、工夫(教具、教材、ソフト、話し方、平易な言葉遣い、表情、聞き取りやすさ)が素晴らしいです。また普段の授業の教具作りのヒントも頂きました。

大学の資源を開放(貸出)のお話はとても興味深く、具体的に検討したいと思います。

講師より Impression from lecturer

子どもたちの好奇心旺盛さには、いつも目を見張るものがあります。その無限の力を引き出す一助になればと思っております。授業のために制作したパワーポイントファイルの提供、クリッカーや臓器模型、聴診器の貸出なども行っていますので、より広く多くの子どもたちにその機会があることを願っています。